

「立野ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

日 時： 平成24年9月23日（日）14:00～15:30

場 所： 大津町 中央公民館（大会議室）

発表者： 意見発表者

○住民（1番）

大津市内に住んでおります●●と申します。市内で学習塾を経営しております。

私は、昨日、午前中の半日を使いまして、熊本市内でありました同じような住民発表会の方に行って参りました。最初から最後まで18人の方の意見を聞きまして、本当に私が思っていたことや言いたいことがたくさん出てきました。私の知らないこともたくさん出てきました。簡単に整理しても大体20～30ぐらいの論点について、国交省さんの方から出された素案がおかしいのではないかという意見がありました。是非この意見に関しては一つ一つ、今から時間をかけて検証して行って欲しいと思います。というのも、同じような素案を見ながら、地元の首長さんたちを集めた検討の場というのが3回開かれているわけですが、その3回の中で出てきている意見というのは本当に少ない。ところが、たった10日間で200ページの素案を読んだ市民の方々から出た意見はあんなにたくさんありました。だから、結局いかに検討の場というのは形だけのものだったのかという気がします。本当にダムが正当かどうかということに関しては、今から私達住民が一生懸命勉強しますので、その意見も一生懸命お聴き頂いて、対話しながら、その中で討論というか検討集会というものを作って頂いて、みんなで検討させてもらうということを是非させて欲しいと思います。

ダム本体だけでも900億円ですから、ざっと計算すると実は熊本県の熊本県民の負担分が1/3らしいですので、1人15,000円だそうです、県民一人ですね。うちは家族が5人おられますので70,000円ぐらいになります。こういうお金を出すんですから、このぐらいのことは言わせて欲しい、このぐらいの時間はかけさせて欲しいと思います。

それから、今日はどうしても言いたいことが一つありましたので、ここにまとめてお話しをさせて欲しいのですが、実は大津町の町民にとりまして、最大の宝というのが北向山原始林です。何故かという国天然記念物です。そういったものは他にはありません。実際、私は北向山を初めて見たのは、そうとは知らずに近くを通った時でした。ちょうどダム建設のために作られている長陽大橋、国道57号から南阿蘇の方への抜け道となっておりますので、抜け道があると思って行ってみたら、たまたま北向山が見えまして、最初に行った時にはちょっと息をのみました。私は元々、環境保全学科という大学の学科を出ておりますので、山のことは大好きでいろんな山をみておりましたけれども、とても美しい山です。美しいだけではなくて、僕が見たのは秋の始め頃でしたけれども、たくさんの周囲の木がモザイク模様のように黄色くなり変わったもの、赤くなり変わったもの、濃い緑、くすんだ緑、色んな木がモザイクのように盛り上がり、こんもりこんもりと出来上がっている大きな山の一連です。ああいったものは本当に見る機会は希ですし、私も色々調べましたけれども、都市近郊にこれだけの原始林があるというのは、日本でも本当に希

でありというふうに書いてあります。こういった貴重な宝、そして見るだけで息をのむようなあの美しさ、ああいったものをしっかり残していきたいというのが私の気持ちです。ダムではあまり影響がないというふうにと書いてありますけれども、よく読んでみますと「影響はできる限り回避するように努める」と書いてあります。どこにも影響が出ないとは書いてありませんし、他の14個の素案と比べても、ダム案は最も環境に影響がある計画案です。実際、高さ90mのダムができると、北向山の一番下のところからほぼ90mぐらいのところまでは、水に浸かるわけです。水に数日間浸かれば、原生林の木は枯れます。そして、後に枯れあがったものが残り、そこが崩落を始めます。北向山が原生林として残っているのは、角度がきつくて、人が入れないからであって、その急斜面の木が枯れれば、すぐに崩れ落ち始めるのは目に見えていると思います。そういったことになるのを私は見たくありません。

それから、もう一つ。ダムが出来るのは、北向山の一番下流側の端の方になりますけれども、そんなところに高さ90mの巨大なコンクリートの壁が出来るわけです。市内の水前寺公園でいえば、公園の脇の方に携帯の電波塔が建つようなものです。脇だから環境に影響はないだろうと言えるかどうかです。言えないと思います。あそこにダムを建てるというのが元々があまりにも無謀です。もったいないです。ゴッホの向日葵の絵が1枚3億円という話ですけれども、だとすれば北向山の100ヘクタールの土地は、3兆円でしょうね。3兆円の価値のあるあの北向山を、何故ほんの数百億円の差でダム計画にしてしまい、ダムであの北向山をダメにしてしまうのか僕には理解できません。それに数百億円の差程度のことでしたら、是非他の案、堤防を作るとか、河川を掘り下げるとか輪中堤もそうですけれども、そういった計画案に地元の業者を使って頂いて、地元の川を愛する人達が、地元の川を守るために仕事をして、一生懸命住民とともに地域の環境を守っていく、そういう状況を作って欲しいと思います。

以上よろしく願いいたします。

○住民（2番）

みなさんこんにちは。大津町に住んでおります●●と申します。

私、7月12日の九州北部豪雨がございました。夜が少し明るくなってから、すぐ家を出て、白川を下流の中島方面から、上流に向かってずっと見て回りました。この7月12日ときの水害の時の白川の状況ですが、確かにものすごかった訳ですが、基本的に町内では堤防を嵩上げするとか、あるいは川底を掘り下げるとか、そうすれば、この前の7.12の水害にも耐えうると思ったところでした。しかし、白川の主要な護岸は、この7.12で崩壊をしてしまいました。ですから、この崩れた護岸が、単なる災害復旧で元のようにつくるだけでは、済まされない問題ではなかろうかと思えます。中流域では、こうした洪水に耐えうる河川整備計画が作られていないと私は聞いております。県の管轄だからでしょうか。この前の水害の復旧と同時に、河川整備計画をきちんと作り直して水害に耐えうる護岸整備を見直して頂きたい。また、私は町会議員もしておりますが、そうした中流域の護岸の整備計画について、なんら今まで説明を受けたこともありませんし、そのためにどのくらいお金がかかるかも聞いたことはありません。なにやらダムをつくった方が安上がりということらしいのですが、この前の水害で壊れたところを復旧する費用は、この対比の費用にもし

かしたら含まれているのではなかろうかと、そうだとしたら、とんでもないごまかしではないかと思うわけです。ダムの方が安上がりというのは、どうにもわかに信じがたいというわけです。結論として、ダムを前提とする中流域の河川整備をやるとしたら、まさに中流域の河川整備がお座なりにされかねないと私は危惧しているところであります。

また、穴あきダムは洪水調整に役立つと言われております。私も以前は、穴が空いてれば水はさらさら流れて何ら問題はないとうっかりそう思い込んでおりましたが、この問題を考えるにつれ、5mの穴が空いているそうですが、ここに流木や岩石が、もしダムの穴を塞いだら、この前の大雨で私の計算では3時間ほどでこのダムは満杯になってしまう訳です。となると、その後も大雨が続けば、上流から大雨と同時に、ダムの放流水が下流を襲うということになりかねないという心配もあります。穴あきダムは環境に優しいと言われておりますが、これはとても信用できません。

土砂の堆積はほとんどないと先ほど説明がありましたけど、阿蘇方面から急激に滝のように落ち込んだところに立野の峡谷はあるわけですけど、その下にダムができれば、そこで水勢が普段は弱まります。ということは、ダムの上流側にどんどん岩石、それから阿蘇の火山灰を含んだ泥が埋まって、要するに堆砂がどんどん進んでしまうのではなかろうかというのは、普通に考えれば明らかでなかろうかと思えます。国交省では以前はもっと堆砂量があるというふうに想定されていた時期があったらしいすけれども、今はほとんど影響はないというようなお話はどうも信じがたいと。もしそうなれば、火山灰を含んだ濁った水が1年中白川を濁してしまう訳です。2,3日前もちょっと雨が降っただけで白川は真っ黒く濁って、翌日は澄んだ水に変わってましたけど、こういう心配があるわけです。

それから、ダムによる安全性、環境への影響はまさに慎重に再検討されるべきだと私は思います。これから500億円もお金をかけるのであれば、現在の白川の護岸をもうちょっときちんと壊れないようなものにして頂きたい。

1点だけ最後に申し上げますが、国交省の以前のネットで調べたんですが、白川中流部の大津町や菊陽町のはん濫を防止することは下流側さらに大きな洪水を流下させ、負担をかけるというふうな文章が出ております。つまり、中流ははん濫を起こしてもかまわないというようにとらえられます。国交省はどういうふうを考えているのかと、非常に疑問に思ったところです。もちろん、熊本市で洪水が起きることは防がなければなりませんけど、国交省が河川整備計画をたてた下流側は基本的にはこの前の7.12にも持ちこたえたと聞いております。そういうことで、住民の意見を聴きながら、住民が納得がいく、そういう方法で進めて頂きたいと思えます。

終わります。

○住民 (3番)

皆さんこんにちは。大津町に住んでおります●●といたします。

こういう席に初めて立たせて頂きまして、こんな感じでやってるんだなということも初めて知りましてちょっとドギマギしてます。意見を言わせて頂ければと思います。

ダムの善し悪しというところについてはちょっとまだよく分かっていないところですけど、今、説明者の方から説明を受けたときにちょっと感じたことが一つあります。計画をする上で何処をベースにするかというところが大事な事だ言うことが良くわかりました。

今回のダムについては昭和28年の水害及び平成2年と昭和55年の水害を基本に計画をされているということで、そういう洪水対策ということで計画をしてあるということは解りました。しかし、今回の水害でその規模をどの程度上回っているのか下回っているのか、そこがベースになっていないということがまず感じたところです。ものを作るにあたってお金をかけるのだから基本をどこに置くかということで、例えば今年度以降の10年以内にダムができたとして、私たちの市民町民のレベルではこれで今回の規模の水害がきても絶対に安心なんだとか、このダムによって、もう私たちの感覚は今年の水害が基本になっているわけです。これの何倍の容量があるか、例えば1.5倍なのか2倍なのかということはもう感覚的に新しく作るんだから感じるんだと思います。と同時に、そうでないといけないのではないかと感じているところです。具体的に言いますと、昨年のもとの事故によって国の姿勢が問われたということは明々白々だと思いますし、それに対する対策については、即、専任の大臣が就任するぐらいの体制で国の根幹を守ろうとしています。規模は違いますが、私たちの根幹はやっぱり地元で生活していくというのが根幹なもので、その根幹をどうやって守っていくかということにしか基本的な意識は持っておりません。そこで一つ疑問に呈するところが、疑問というか入ってこない情報が幾つかあって、それはどういったことかといいますと、7月12日の未明に大雨が降って実際に水害が起きました。新聞報道等によると、熊本市及び県になるかもしれませんが情報の伝達がうまくいかず避難が遅れた。立野ダム工事事務所が熊本のあそこにできて何年経つか分からないですし、そこに数十人の職員の方がいらっしゃると思うんですけど、その当日どういう風な情報を県とか市に対して送って頂いて、避難及び対策というのをされてたのかなということの情報が、新聞や他の報道でも入ってこないもので、もしかして寝てたんじゃないかという風になります。それはなぜかというダムは必要だということをおっしゃってるのであれば、今の時点でどう対策しないといけないかというのはリアルタイムに、それこそ先ほどメールという言葉がでましたけれども、リアルタイムに対応ができてると思っております。その部分で、本当の気持ち、その真意、それと意気込み、それとどう地域を変えて行きたいかというのを、もすこし明確に分かりやすく、是非地元紙熊日新聞、購読者が増えるように情報をいっぱい流して頂ければと思っております。そういう単純な話で大変申し訳ないですけどもそういう疑問がありまして、流量調節という風な言葉も出ておりますけども、何処を基本において頂けるか、そこを重点的に今後検討して頂きたいと思っております。

以上です。

○住民（4番）

皆さんこんにちは。菊陽町の●●です。

今回関係住民の意見を聴いて頂くということは大変ありがたいと思います。しかし、この検討報告書は膨大な量で専門的な内容も多く含まれています。これは、9月11日に関係自治体の会議を開かれた後だと思いますが、やはり短期間にこの報告書を読み意見を述べることは一般の町民にとっては非常に困難です。また、専門的なことも多いですし、やはり、一般の私たちも理解できるようにしっかり時間をかけて頂きたいというのが私の一番の希望です。意見を聴く会を設けるのであれば、やはり聴く会の前にもう少し説明会をす

るとか、各関係のところに出かけて頂いて懇談するとかそういうものをしてほしいというのが第一希望です。また、7月12日の豪雨災害で菊陽町の農地や農業用施設、白川の護岸など甚大な被害を受けました。私は9月21日に町議会の産業建設業委員会で白川沿川の被害状況を視察して回りました。もちろん、当日もずっと回ったわけですが、菊陽町だけではなくて、大津町の農業用の取水口「頭首工」とも言いますが、そういうところも非常に被害が大きくて、あの大きな石がこれだけ流れてきたんだということで改めて深刻に受けとめた所です。白川の護岸が崩れ、川沿いの道路などが菊陽町ではガードレールごと流されています。菊陽町は農地の被害も65haありました。上流の取水工も被害が大きく速やかな復旧が必要です。今、立野ダム建設事業をどうするかという前に、今回被害が出ている白川護岸の復旧をどういうふうにやっていくのか、国・県としても力を入れて頂きたいし、どういう内容で、例えば浚渫するのか掘削するとか、そういう対応をどの様に計画していくのかが町民にとりましては一番の思いです。

報告書にもありましたように菊陽・大津の中流域は河川整備計画がありません。ですから、今、白川の治水のために浚渫・掘削を要望してもなかなか河川整備計画が無い中で、目処がたたないというのが現状ではないでしょうか。

私は、2番目に立野ダムの建設の検討の前に今できる河川整備計画を立てて頂き、やはり被害を受けている方、また白川沿川の農民の方、そしてお住まいの方は、10年後のことでは無くて台風や例えば来年の梅雨前までにそういう災害が起こらないようなことが何か出来ないかというのが一番の要望です。そこをくみ取って頂きたいというふうに思います。

また、県内の一級河川である球磨川では川辺川ダムが中止になっていますし、荒瀬ダムも撤去を始めています。この時期になぜダム建設なのかというのが疑問です。こういうところもしっかりと説明して頂きたいというふうに思っています。また、私も阿蘇の入口である立野ダム建設予定地を見に行きましたけれども、やはり、北向山の原始林の自然はすごいなと思いました。この報告書では影響が無いようにするというのでしたけれども本当に疑問だなと思っています。この自然を残して欲しいということです。

最後に、白川沿川の農地・農民の方・菊陽町民の方、白川の治水について今後町はどの様に考えていくのか、そのことが一番今関心をお持ちです。是非そういう状況にあり、また今度の災害の復興には多額のお金がかかるという中で、それを先に優先して欲しいという思いがあります。今回こういう場を設けて頂いたことは非常にありがたく思いますが、今後やはりじっくりと町民に解るように説明して頂きたいし、我々の意見もしっかり聴いて頂きたいということを要望いたします。

以上です。

○住民（5番）

こんにちは。大津町に住んでいます●●と申します。もう少しで83才になります。

ダムがどうなっていくのか、白川がどうなっていくのか非常に心配をしている訳です。その様な立場から話をしていきます。

18日に役場に行きまして膨大な素案を読みました。3時間かかりました。老眼鏡を持って行って、虫眼鏡を持って行かないといけない様な数値があつて、後半の方の小さな数字は捨てました。だけど、読んでこれはどうもおかしいなというところに行き当たりました

ので、そのことを含めて話をさせていただきます。

大津の白川の東の方にある町の温泉が出来ています。あそこに今度の7.12にも膨大な水が押しかけてきて温泉まで付き当たって、その後、どういうふうに応急措置をするのか毎日見ているわけでありましたが、ある程度済んだら放置してあります。先ほど●●さんがおっしゃいましたように、大雨の時に白川は大量の火山灰でいつも濁流です。赤茶色です。阿蘇のカルデラに堆積している火山灰と土砂、岩石が流れてきます。7.12ではこれまで経験したことのない様な大雨と気象庁は言うておりましたが、これが再び阿蘇を襲えば、立野ダムは火山灰のあるいは岩石、火山灰ですぐ埋まってしまうのではないかと心配しております。穴あきダムの穴は、阿蘇から流れてきた杉はまるで機械にかけたようにきれいに流木がはげていますが、流木だけではなくて根をしっかりと生やした大きな株が流れて来ます。これが穴あきダムにぶつかったら瞬時に塞いでしまうと思います。穴はまるごと埋まってしまう、穴あきダムは効果がなく、堆積した土砂で穴は埋まってしまうと思います。素案では、堆砂は水位の低下と共に流れ、元の状態に戻ると言うふうに言っています。とんでもない発想だと思います。雨が上がって干上がったダムを見ると、水が流れた所だけは穴が空いていて流れますが、両側はすごい土砂が堆積していて大きなダンプカーがその土砂を運び出している訳です。穴あきダムは埋まってしまうと思うけれども、水が減ると同時に元の状態に回復するというのは信じられないです。貯水と同時にダムの上流側では緩やかになってくると思います。緩やかになればそこまで流れてきた土砂や火山灰は堆積していきます。そこに積もった大量の火山灰、土砂と岩石で埋まったダムは、調整ダムの働きは無いと思います。大量の水を貯めたダムは白川下流の住民、環境に甚大な被害を与えたいと思います。ダム建設は中止して河川改修でいくのが良いのではないのでしょうか。それは6.26の大水害で下通り・新市街は大量のヨナと泥で埋まりました。その後、廃土が出来ずに街を歩く人は、あの色と臭いで住民は大変な苦勞をしました。しかし今度の雨では安全でした。それは河川改修が出来たからです。反面、やっていたなかった龍田陳内はご存じの様にヘリコプターで住民を救出しなくてはいけない様な状態でした。私はやはり河川改修に取り組むべきだと思います。立野ダムは工期が10年かかるとの事ですが、その間再び、7.12クラスあるいはそれ以上の降雨が出れば、先に述べたように白川流域の市町村の住民の命を奪い財産を奪い自然を破壊しとんでもないことが起こる。立野ダムは中止して、白川改修に取り組んで欲しいと思います。私が生きている間に何とか白川が安全に流れるように、ダムを造らなくてすむようにやって欲しいと思います。

以上です。

○住民（6番）

こんにちは。菊池から来ました●●と申します。

私は大矢野町出身です。私は去年の2010年の正月の1月4日だったと思います。富山県の富山湾のことについてテレビでやっていました。海に魚を捕る網を張っているのですが、漁師の人達が張った網を1日から2日後に上げたら5,6キロのヒラメの骨ばかりがかかっている。網に骨ばかり。それを見て私はびっくりしました。それで何でかと言えば、黒部ダムの土砂を排砂して、その土砂が海に全部流れ込んで、土砂と一緒に腐葉土とって

落ち葉の腐ったものが富山湾に流れて、それが富山湾に堆積して、そこに1cmぐらいのエビがものすごい発生しているらしいです。その1cmの虫が網にかかったヒラメをみんな食べてしまう。だからそのヒラメが全部骨ばかり上がってくる。それが一匹二匹ではなく、ほとんどその網にかかたものは骨ばかりです。富山湾というのは日本海だから、急に深くなっているから、遠浅の所にそれが溜まって食べていくと。その代わり、余分に廃砂したやつは日本海にみんな流れていくから一つも影響はないということです。ところが有明海だと、とんでもないことになると思います。あさが取れる取れないの問題ではないです。口之津の入口までおかしくなってしまう。たらいの中にヘドロを流しているのと一緒です。一番問題なのは排砂なんて関係なく、一番問題なのは落ち葉です。阿蘇の外輪山の中にある落ち葉が皆あそこに流れていく。堆肥となって流れ、それに海の中で虫がわいてしまう。小さな1cmぐらいのエビ。だからダムは絶対造ったら駄目です。有明海を捨てるつもりで造るのあればやって下さい。国で有明海をどうやって再生するのかをやっていますが、今でさえ諫早湾でおかしくなっています。それと今、オーシャンアローかなんかで水をジェット噴射で推進させて走る船がありますが、浅い有明海の熊本港のヘドロを走る度にかき混ぜられているから、天草まで黄色い海になっています。だからあんな船は皆潰してしまえば良いと思います。プロペラの船で走るのが丁度良い。材木などを拾って走る船も皆それであります。だから海が汚れてしまうのです。あんな船は本当は全て捨てなければいけません。だから今でさえそのような状態で、今度は上からどんどん落ち葉が流れてきたらとんでもないことになります。落ち葉は春と秋に落ちます。常緑樹は春、落葉樹は秋、それが全てあそこに溜まってしまいます。だから砂はかわいいものです。砂よりも一番大事なのは落ち葉。落ち葉をあそこで堆肥を作って有明海に流したら有明海はどうなりますか。とんでもないことを考えている。だから、即刻止めて下さい。それをやらないと大変ですよ。これを本当に国の人たちが知っているのならば大きな罪人です。終わります。

○住民（7番）

皆さんこんにちは。私は熊本市渡鹿7丁目から来ました。龍神橋の近くに住んでいます●●と申します。

結論はダムは作らないで欲しいということです。私が住んでいる近くの小磯橋もそうですが龍神橋のところも堤防が10mか20mわかりませんが立派な堤防の部分が橋の際のところと途切れているという感じがします。龍神橋の付け根のところですね。たぶんそこから水があふれ出しました。それで大井手の方に流れ込んだのではと思っています。実際に見に行ったわけではないですけど、たぶん熊本市内で水があふれた場所は、途切れたところから水が溢れて、道路が冠水したのではないかと感じています。ダムを作るよりも河川改修で堤防をきちんと作り、どこからも漏れないように、完全には不可能かも知れませんが、極力漏れないよう作って頂ければそれが一番安くあがるのかなと思います。先ほど費用が一番安上がりということですが冗談ではありません。一番安上がりだから立野ダムを作りますという風な発想でダム作ってもらっては非常に困ります。世界の阿蘇といっているところにたかが立野ダムを、冗談ではないですよ。そんなもの作ってもらっても困ります。金は関係無いと思うのです。金が安くあがるからダムを作るという発想自体が

おかしいと思うのですが。みなさんいかがでしょうか。安ければいいものじゃないでしょう。まったくこれは腹が立つ。だいたい何を考えているだとか私は考えられないですね。今日は私はここで発言するつもりで来たわけじゃないですけど、やはり何か一言言いたい。結論は絶対に作ってはいけません。世界の阿蘇です。なんて言ったら世界の阿蘇です。あそこにダムを作ったら世界の笑われ者ですよ。日本人は何をを考えているんだ。熊本県民の経済普及効果なんてないんじゃないですか。よそから来たゼネコンに心もないやり方でダムを作られるのが関の山じゃないですか。地元の方は何も潤わないのではないですか。違いますか。どうせなら堤防を作るなどの河川改修とかで潤ってもらった方がいいなと思っております。

以上です。終わります。

○住民（8番）

こんにちは。大津町在住の●●といたします。

実は私、傍聴席でご発言された方と同じ席に座っておりまして、こちらの資料を検討させて頂く中で疑問を感じたものですから、それを聞くにはどうしたら良いですかとお尋ねしたら発言して下さいということになりまして発言者席に座ることになりました。やはりルールとしては傍聴席の方の不規則発言は慎んで、きちんと発表者席に移られた方が良いかと思えます。私はそうしました。

単純な疑問を感じたのでお尋ねしたいのですが、基準地点の代継橋で昭和28年6月26日の洪水で、その時の量が3,400m³/sを3,000m³/sに落とすということですよ。これは概ね150年に1度の確率でしか発生しないことだということです。それで、将来的に対応するには膨大な事業費と時間を要するということなのです。6.26水害の時の流量は3,400m³/sだということです。それを、洪水調節では3,000m³/sにしたいということなのです。しかしそれは膨大な事業費と時間を要しますということで、それで何を考えられたかということ、近年発生した昭和55年と平成2年の洪水の時の量にあわせましてということて2,300m³/sの流量を2,000m³/sに低減させますということです。これだと、今後20～30年の整備目標として、近年発生したということで、膨大な事業費と時間はかからないので、とりあえずこれにあわせて洪水調節をしますという発想なのですから、ダム建設そのものが段階的な整備ができるのかということに疑問に感じました。やはり、最大リスクは150年に1度の確率ですが、実際に起こった自然現象にあわせるには3,400という数値が事実あった数字ですね。それと、先ほどの●●さんの発言で、7.12の時の流量はどのくらいあったのかについて我々知らされていない数字ですが、この数値は是非しりたいと思っております。そして、やはり防災・減災を目指すのであれば最大リスクを想定すべきだと思います。想定しないでやるから想定外の事が起きるわけで、防災・減災に費用対効果を使うという発想自体が貧困であるし間違っていると思います。何のためにやるのだという理念をはっきり持つべきだと思います。例えば費用がどれだけかかろうが、何がしたいかという事です。費用は安く抑えて適当に程々のことをやりたいというような、今までの様な日本社会から脱皮しましょうよ。何回同じ事繰り返すのですか。私は例えどの様な費用がかかろうともやらなければならない事であれば全ての事業をストップしてでも、立野ダム1つを作れば良いと思えます。私の考えはその様に思っております。本当に大事な事は、費

用対効果では無く、必要なものは必要な時点で作るということで、恐らく今の時点では2,300を目標にやらないと費用があまりにも膨大にかかりすぎるという問題が発生するのだと思います。そういうごまかしは止めた方が良いでしょう。

以上です。ありがとうございました。